

成田市学校教育振興基本計画策定委員会 会 議 概 要

1 開催日時

平成27年7月28日(火) 午後2時00分～午後3時40分

2 開催場所

成田市花崎町760番地
成田市役所6階 中会議室

3 出席者

(委員)

明石要一委員長、野村豊副委員長、太田洋委員、櫻崎弘美委員、渡邊直行委員、渡邊邦明委員、渡邊信治委員、桑村雄一委員、渡邊昌美委員及び寺内章喜委員(成田市)

教育委員会 関川教育長

教育総務部 伊藤部長、篠塚学校施設課長、江邨学務課長、大竹教育指導課長、後藤学校給食センター所長

生涯学習部 平川副参事、大矢生涯スポーツ課長

企画政策部 高橋企画政策課長

健康こども部 宮崎子育て支援課長、伊藤保育課長

事務局(教育総務課)

鬼澤課長、鈴木課長補佐、窪田係長、弘海主査

4 議題

- (1) 委員長及び副委員長の選任について
- (2) 成田市学校教育振興基本計画骨子(案)について
- (3) 成田市学校教育振興基本計画策定に向けた現状と課題について
- (4) 今後のスケジュールについて
- (5) その他

5 議事(要旨)

委嘱状の交付、関川教育長あいさつ、委員紹介の後、議題(1)の「委員長及び副委員長の選任」が行われ、委員長に明石委員が、副委員長に野村委員が選出された。

その後、事務局から、議題(2)の「成田市学校教育振興基本計画骨子(案)」、議題(3)の「成田市学校教育振興基本計画策定に向けた現状と課題」、議題(4)の「今後のスケジュール」について配布資料に基づき説明があった。

また、各議題における主な質疑応答、意見等は、次のとおりであった。

成田市学校教育振興基本計画骨子（案）について

- ・ 前計画の「成田市学校教育長期ビジョン」における成果はどこまで達成しているのか。それに基づいて、今後の計画をどうするのか検討したい。
⇒H26年12月にHP等で公表した『「成田市学校教育長期ビジョン」における教育施策の成果と課題』を追加配付し、内容の補足説明を行った。
- ・ 計画期間の10年は長くないか。途中の5年程度で何か検討をするのか。
⇒前計画が15年で、市の基本構想が12年となっていることや、教育についてはある程度継続性や安定性が必要と考えたことから10年と設定した。また、単年度ごとに進捗状況の確認を行い、事業の検証を行っていく。その検証の中で、計画の大きな変更が必要となれば、そのような計画見直しも必要となるかと思う。

成田市学校教育振興基本計画策定に向けた現状と課題について

- ・ 4月から教育委員会制度が変わり、総合教育会議が始まっているかと思うが、成田市ではどのような状況か。今後は市長との関係も重要になってくる。
⇒6月30日に1回目の会議を開催し、今後は年3回程度の開催を予定している。また、1回目の会議においては、総合教育会議の設置について同意をいただくとともに、大綱の策定にあたり、その体系等について協議をいただいた。そのほか、各委員からは教育に対する思いについても発言いただいている。なお、大綱の策定については「成田市学校教育振興基本計画」と、生涯学習分野の基本計画である「成田市生涯学習推進計画」をあわせて大綱とすることで同意を得ている。
- ・ 体力テストの結果については説明いただかないと良く分からない。また、文科省の学力テストについても同じである。成田では、英語に関する興味・関心については伸びているが、学力テスト等の結果についてはどうなのか。細かなデータを基に分析した上で、次の計画を策定すればもっと良くなる。
⇒運動能力については全国平均に近い値となっている。また、学力調査の結果についても、全国平均と同程度である。なお、学力調査については全学年を対象としていないため、調査年度によって差が出てくる。英語については、中学1年時の力は全国的に高い。しかし、残念なことに2年、3年となるにつれて落ちてきてしまっており、そこは大きな課題として捉えている。
- ・ そういったことから、小中一貫教育というのが大事になってくる。学級担任から教科担任に変わる、そのつなぎをどうするのが大事である。
- ・ 以前は、成田と言えば英語教育で有名だった。また、小中の接続を考え始め

- ているとのことだが、もっと先を見据えた取り組みをしないといけない。今までと同じこと、他と同じようなことをやっているだけでは駄目ではないか。
- ・ 国の学力調査の話があったが、効果測定の方法として、様々なものさしを持っていた方が良い。ペーパーテストだけでは見えないものがある。また、学び方や学習観についても、単に知識を身につけるだけでなく、どのように知識を活用するのか、そのために表現力や判断力、思考力をどのように高めていくのかに変わってきている。その学び方・学習観が基本的な施策に入ってくれば、効果測定の方法も変わってくるのではないか。
 - ・ 成田市における35才から48才の人口動態を知りたい。この層が子育てと教育に関心を持つ層である。また、18才から22才の高等教育を受ける層が成田から出ていってしまっているのかも知りたい。市全体としては増えていくとは思いますが、個別の層についてはどうなのか。例えば、東葛地域の市では、震災以降、若い人は減ってきている。しかし、教育で人を呼ぶことができれば、もっと自信を持って進めていけるのではないか。
 - ・ この夏の世界陸上でアメリカチームが合宿をする。また、5年後はオリンピックで、成田にたくさんの方が降りてくる。その時に、成田でゆっくり滞在してもらえよう、世界に成田をアピールできる施策があると良いのではないか。
 - ・ 財政面についても考慮しなければならない。絵に描いた餅にならないよう、教育を支える財源の確保についても、どこかで考えてもらえると良いのではないか。

今後のスケジュールについて

- ・ スケジュールを見ると、ワークショップの報告書が7月に完成とある。それを配付して頂きたい。
⇒現在、まとめているところである。出来上がり次第、委員に送付させていただく。

6 傍聴

3人